

お薬のしおり

関節リウマチとお薬 No.61 (H18.10)

東京医科大学病院 薬剤部

みなさんは、“関節リウマチ”という言葉聞いたことがあると思います。手足のこわばりや関節が痛くなる病気ということは知っているかもしれませんが、今回は少し詳しく説明したいと思います。

関節リウマチとは、関節の痛み・腫れ・炎症が全身に広がり、これらの症状が続くと関節の変形・破壊が進み、最終的には身体障害にまで至る病気です。この病気に悩む患者さんは 70～100 万人とも言われ高齢化にともない年々増加する傾向にあります。主に 30～50 歳代の人が発症しやすく、男女の比率は 1：3～4 と女性に多い病気です。原因は現在のところはっきりとは解明されていませんが、免疫の異常が関わっていることは確かなようです。

症状には、関節の症状と関節以外の症状があります。

- ① 全身症状：全身倦怠感、食欲不振、体重減少、発熱、朝の手足のこわばり、貧血といったものがみられます。
- ② 関節症状：手足の関節の腫れ・痛みから始まり、徐々に対称性に多関節に広がって、関節内に水がたまることもあります。手首、指の付け根や第 2 関節、肩関節に起こりやすいです。進行すると関節が破壊され、変形も起こってきます。動かせる範囲が狭くなるので日常生活に支障が出てきてしまいます。
- ③ 関節以外の症状：皮下結節（肘や後頭部、お尻などの外からの力がかかりやすいところにこぶのような硬いしこり）、心膜炎・胸膜炎、肺線維症、末梢神経炎、涙腺や唾液腺に炎症などです。

治療法ですが、局所の関節の治療だけでなく全身的な治療が必要です。その治療法は、基礎療法、薬物療法、リハビリテーション療法、手術療法と大きく 4 つに分類され、これらをうまく組み合わせることで痛みを抑え、なおかつ病気の進行をくい



止めることを目標に治療を行います。現在は、完全に治すことができなくても、それに近い状態（寛解）に持ち込むことはできるようになってきています。治療の中心となる薬物治療ですが、関節リウマチに使用される薬剤は大きく分けて4種類あります。

① 非ステロイド性抗炎症薬（消炎鎮痛薬）

痛みや炎症のもとになるプロスタグランジンという物質が体内で作られないようにすることで炎症を抑えて痛みを和らげる薬です。病気自体や関節の破壊を抑えることはできませんが、即効性があるため関節痛やこわばりに効き日常生活を維持するのに役立ちます。

② 副腎皮質ステロイド薬

非ステロイド性抗炎症剤と同様にプロスタグランジンの生成を抑えますが、より早い段階で生成を抑えると同時に免疫異常に対しても作用する薬です。活動性の高い関節リウマチ初期治療に使用されたり、また疼痛の軽減に少量で使用したりします。

③ 抗リウマチ薬、免疫抑制薬

免疫の異常を改善して病気の進行を抑える薬です。現在では、発症3ヶ月以内の早期から積極的に抗リウマチ薬を使用するようになっていています。副作用は薬によって異なりますが、時に重篤なものもあるので注意が必要です。

④ 生物学的製剤

新しいタイプの抗リウマチ薬であり、炎症や関節破壊が起こる仕組みを免疫学的に解明し、生物によってつくられるタンパク質などを利用して開発されたところから、「生物学的製剤」と呼ばれます。これらはリウマチに対してきわめて強力な治療効果を示し、リウマチの診療そのものの姿を変化させつつあります。注意が必要な副作用は、感染症とアレルギー反応です。

このように、様々な薬があります。医師が患者さんの症状をみながら治療計画を立てて処方しています。痛みが治まった、副作用が恐いからといって勝手に服用を止めたりせず、必ず医師と相談するようにしましょう。

